

「近代オリンピックの父」

今回は「近代オリンピックの父」と呼ばれ、近代オリンピックの開催に尽力したフランスのピエール・ド・クーベルタン^{たんしやく}男爵^{きさく}について詳しく紹介します。

1863 年、クーベルタンはフランス^{きさく}貴族の裕福な家庭に生まれました。貴族として生まれた彼は、将来は政治家や官僚^{かんりよう}になることを周りから期待されます。しかし、当時のフランスは戦争下にあり、この現状を変えるには教育の力が必要だと考えたクーベルタンは、教育学に強い関心を持つようになります。そこで、イギリスのパブリックスクール（13～18 歳までの子どもを教育するイギリスの私立学校のこと）を見学するために、イギリスに渡ります。そこで目にした、イギリスの学生たちがスポーツに紳士的に打ち込む姿^{かんめい}に感銘を受けたクーベルタンは、「今のフランスの教育ではダメだ！フランスでもすぐにスポーツを教育に取り入れた改革が必要である。」と考えるよ

うになりました。やがて、自国フランスの教育のためだけでなく、スポーツは、国際交流や世界平和に貢献^{こうけん}する役割があるのではないかと考えるようになっていきました。

そんな頃、当時の考古学者たちによって、古代ギリシャでオリンピックという競技会が行われていたということが明らかにされます。そのニュースに関心を持ったクーベルタンは、「オリンピック復活^{こうそく}」の構想を思い描きます。1894 年、パリ万博に際して行われたスポーツ競技者の会議で、クーベルタンは、オリンピック復活の計画を提案します。すると、満場一致^{まんじょういっち}で可決。国際オリンピック委員会 (IOC) が立ち上げられ、2 年後の 1896 年にオリンピック発祥の地であるギリシャのアテネで第 1 回大会が開催されました。

クーベルタンの有名な言葉に、「オリンピックで重要なことは、勝つことではなく参加することである」という言葉があります。クーベルタンは、オリンピックの理想は、人間を作ること、つまり参加するまでの過程が大切であると考えていました。また、オリンピックに参加することは人と人が手を取り合うことであり、オリ

ンピックが世界平和に貢献^{こうけん}してほしいという願いを込めて残した言葉だったのではないのでしょうか。このクーベルタンが提唱した、オリンピックのあるべき姿のことを「オリンピズム」といいます。第 1 回大会から 120 年以上経った現在でも、このオリンピズムは受け継がれています。

オリンピックのシンボルである五輪マークも、実はクーベルタンが考案したものです。「青、黄、黒、緑、赤の色は、白を加えると、世界のほとんどの国旗を描くことができるという理由で選んだ」とクーベルタン自身が書き残したそうです。また、5 つの輪は 5 大陸の結合を表現しています。このように、オリンピックには、様々な願いが込められているのです。皆さんも、オリンピックを観戦する際にクーベルタン氏に少し思いを馳^はせてみてはいかがでしょうか。

次回は、近代オリンピックの変遷^{へんせん}についてみていきましょう。おたのしみに！



ピエール・ド・
クーベルタン
(1863～1937)



1896 年の IOC 委員
(左から二人目がクーベルタン)

【オリンピッククイズ❗】

オリンピックが 4 年に 1 度の開催なのはなぜでしょうか？

答えは次回号で→